

第1回新・健康こうべ21策定委員会 議事要旨

日 時：平成19年11月5日(月)

午後1時30分～3時30分

場 所：神戸市勤労会館 405会議室

1. 開 会

健康部長挨拶

2. 委員紹介

事務局より、資料1により紹介。

3. 新・健康こうべ21策定委員会要綱等の説明

事務局より、資料2について説明。

定足数の確認・・・委員21名のうち、18名出席で有効に成立。

4. 議 題

(1) 会長・副会長の選任

会長に横野委員、副会長に川島委員が選出。

(2) 新・健康こうべ21の策定について・・・資料3

(3) 健康こうべ21の取り組み状況について・・・資料4

(4) 各種データからみた神戸市民の健康状況・・・資料5・6

(5) 新・健康こうべ21の評価指標・目標値(案)・・・資料7

事務局により、資料3、4、5、6、7について説明。

【質疑応答】

意 見：自殺に関して、神戸市独自の課題として孤独死があるが、統計をとっているのか。

事務局：孤独死の正式な統計は無い。災害復興住宅の高齢者など、限定した部分での統計はあるかもしれないので確認する。

意 見：「健康こうべ21」の取り組み状況で、よくなった評価指標、悪くなった評価指標があるが、神戸市としてこの施策を行ったから指標がよくなったとか、これをしなかったから指標が悪くなった、という検証をしているのか。

事務局：十分な検証ができていないのが現状。ある程度、推測できるものと全国的な傾向のものがある。もう少し、検証の必要があると考えている。

意 見：腎不全での死亡で、透析導入後何年で亡くなったかというデータはあるのか。

事務局：そういった統計はない。今後、人工透析についてのフォローアップについて検討したい。

意 見：基本健康診査の結果について、データを出すための母集団の年齢構成比率が年ごとに異なっているように思うが、経年比較のやり方として問題はないか。

事務局：高齢者の比率が増えてきているが、各年度で年齢構成比にそれほど大きなバラつきは

ない。受診対象者でも受診する人、しない人がいるため、データを出すための母集団が一定にならないが、極力、統計処理に工夫を凝らし、年度間の比較をしていきたい。

意見：女性の「やせ」について、20歳代だけではなく、高校生、中学生、小学生にも学校の保健等で、また親に対しても正しい知識をもってもらえるようにしてほしい。

意見：30、40歳代の女性の喫煙・多量飲酒が増えているが、その原因を掴んでいるのか。

事務局：女性の社会進出とともに増えているのではないかとされている。特に喫煙の方はそういう傾向があるといわれている。

意見：健康こうべ21の施策について、今後24年度までに、どれほどの費用を神戸市として予定されているのか。また取り組みの結果、医療費など財政支出がどれほど節減できたのか、またこれからできるのか。市民の健康を改善することが目的と同時に、コストについても意識をしていただきたい。

事務局：次回に考え方を説明する。

意見：早世の率を下げることも考慮してほしい。

意見：健診での要所見（高コレステロール、高血糖など）者を対象にプログラムを打って、どれだけ効果があったかを検証するようなモデル事業をしてはどうか。

意見：歯周疾患健診を40歳だけでなく、もっと他の年代にも健診の機会を増やしてほしい。

意見：「肥満者の推定数を減らす」評価指標について、20年度以降の特定健診と合わせ、まず「腹囲の基準以上」を減らすことを主眼においたほうがいいのではないかと。

事務局：すべての方の腹囲を測定することになっていないため、腹囲単独の基準を設けるのはむずかしい。

意見：特定健診や特定保健指導の実施率だけでなく、生活習慣病の予備軍、生活習慣病の減少など、アウトカムでどれくらい効果があったかという推定目標も追加してはどうか。

意見：低年齢層のシンナー、覚せい剤、麻薬などの薬害問題について、どこかで委員会を立ち上げて対処しているのか。

事務局：全市的に青少協の代表の方々に入ってもらって、年2回対策会議をしている。

意見：啓蒙も含めて指導の強化が大切。学校への指導・教育はやっているのか。

事務局：学校からの出前トーク等の依頼を受けて、シンナーや脱法ドラッグの怖さについて説明している。また、学校でも保健学習のなかで薬物乱用防止の授業を行っており、さらに生徒指導の担当教諭への研修も行っている。

意見：歯について、半年ごとに健診を受け、歯を大切にすることが健康増進に役立つ。

5. 閉 会